

岡 田 宮

—(宝永 4 年) 1707 年 貝原益軒書—

第 16 号

平成 5 年 7 月 吉 日

発行 岡田宮社務所

北九州市八幡西区岡田町 1 番地
郵便番号 8 0 6

電話(093)621-1898

F A X (093) 621-5330

慶 祝

皇太子殿下 雅子様

ご結婚お目出度ございます



夏越祭

(七月二十九日)

夏越の大祓神事を七月二十九日午後六時より執り行います。

社頭に茅の輪を設け、その茅の輪をくぐれば、悪疫を免れ幸福と繁栄とを招来するという古式に則った夏越祭を厳修致します。

ご参拝の方は左記の形代に御家族の住所、氏名、年齢とを書いて、各自の息を吹きかけ初穂料を納めお参り下さい。

ご参拝の方には「お札」と「茅」を授与致しますので、魔除として、玄関に奉斎して下さい。

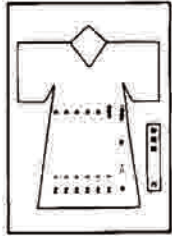
当日、お参り出来ない方は前もって社務所で形代をおかずかり致します。

産土本神 守護

お札



形代 (表)



形代 (裏)

神社なせ 問答

(その15)



問 神話の中にも結婚の様子が描かれていますが、今の宮中儀式などに受け継がれていることがあるのでしょうか。

答 儀式としては、特にないと思います。神話の中における結婚の伝承といえば、伊弉諾尊、伊弉册尊がおのごろ島に柱を立て左右からお互いにめぐり合い、男神がまず「あなによし、えをとめを」と声を掛け、続いて女神が回答をして国生みをしたと伝えていきます。

前回紹介した御成婚に関する儀式の中で、これに相当するものはありません。戦前の「皇室親族令」によりますと、告期ノ儀の後に贈書ノ儀があります。これは歌のやりとりをするもので、強いて言えば神話の精神につなが

ると言えるでしょう。今上陛下の「御成婚」の時にもこの儀があったと伝えられています。また「古事記」の伝承によりますと、諸冊二神のこの結婚の儀式の前に、天神たち諸々の命令により「是のただよへる國を修理固成せと詔ちて、天沼矛を賜ひて、言依さし賜ひき」と伝えていきます。つまり、この未完成的な國を立派にして行きなさいと御命令を受けたというのです。

結婚の儀式には、一般においても若い二人が社会的責任を負ってゆくことを誓い、またこれを祝福する意がこめられています。皇室においては、その事が尚更顯著に伺えます。

もう一度、御成婚の諸儀式を思い出して欲しいのですが、まず「成約奉告」が皇太子殿下みずから賢所で、神宮山陵へは勅使を派遣しておこなわれています。その後、結婚式当日には賢所・皇靈殿・神殿にて「結婚奉告」がおこなわれます。ここで神酒の拝戴がおこなわれます。

これは祖神及び皇霊、また天神地祇につとめを立派にはたしてゆくことを誓うと同時に神々から皇統連綿として伝えられてきた「言依さし」を受けつぐ意があるといえます。それ故に皇太子殿下の御結婚を奉祝することは、國の発展を祈る心にも通じることになるのです。

七
五
三

七五三祭は、子どもの成育にともない折目、切り目に神社にお参りして、いっそうの息災成長を祈る行事です。

三歳の祝いを髪置、五歳の祝いを袴着、七歳の祝いを紐落などと称しますが、これらの名称や、その年齢は地方により、時代によって必ずしも一定しません。ともあれ、七五三は江戸時代から、広く行なわれた行事で岡田宮では、十一月十五日を当日とし、その前後を通じてにぎやかなお参りが行なわれます。

なお、平成五年の七五三の年齢は、左記のとおりですので、ご家族おそろいでお参り下さい。

記

三歳	平成三年生
五歳	平成元年生
七歳	昭和62年生

※年齢はかぞえ年です。

郷土地名考

⑮

曲里 (まがり)

豊前小倉から長崎に向かう街道を、長崎街道と呼んだ。筑前領では黒崎、木屋瀬、飯塚内野、山家(やまえ)、原田(はるた)に宿場があり、これを筑前六宿。曲里はその街道筋で三菱化成の曲里社宅になっていた。企業合理化でガラ空きのゴーストタウン、それが一九八八年、総合レジャー施設の九州プリンスホテルにころもがえして景観がすっかり変わった。

再開発と道路建設で長崎街道の面影は刻々と消え失せており、曲里の旧街道には昭和30年台までは松並木も残っていた。71年市の指定史跡になり整備されたが構え口の位置が違ふと郷土史家の抗議。

曲里は黒崎宿につづく街道がこの辺りでカーブしていたからという。しかし宿駅があれば荷駄の継ぎ立てをともない、それを調達する馬借(まがり)があったのではあるまいか。道が曲がっているから曲里では、国中曲里ばかりになる。

幸神 (さいのかみ)

筑前六宿のうち黒崎、木屋瀬の道中、曲里の先きになる。道祖神の別名で幸の神、寒の神、歳の神などに当て、村の入り口に建立した。女性の性器をかたどったものや男性のそれが祭神になっている。

原型は女性器、男性器の持つ生産力に対する畏怖と信仰で、村の疫病をさえぎるところにあったという。猿田彦大神もその類型。天孫降臨の道を塞いだサルタヒコを、アメノウズメが裾をおっぴろげて見せて降参させる。要するに生殖、生産神として祭ったのであり神仏混淆を通じて多様なかたちを生み出した。道祖神の源流は朝鮮、中国、東南アジアに分布しており、村の入り口や道路脇にあって悪霊や疫病の侵入をさえぎる役割を担ったのだそう。さえぎる神、さいえの神だ。しかし幸神とはやさしい町名だ。

河桃 (こうとう)

発祥は河頭(こうとう)。河頭は河頭山に由来するが筑前国統風土記拾遺では岩洞山(がんだうやま)になっている。こうとうもがんだうも岩のゴロゴロした場所という原義は同じ。

河頭山は全山花崗岩であり、寛永の頃江戸東叡山の鳥居の石を献じたともいい、また新田開発の用材もここから切り出した。水晶も産出した。山頂には当時の石切り場跡もある。北九州道路の通るこの山の中腹は河頭トンネル、トンネル横の公園は河頭山公園。どっちも音だけだと強盗が出没しそう。新しい団地ができたとき、それでは紛らわしいと河桃に変え、途端に可愛いイメージになった。隣の川頭町は河頭の河を川に変え西と東に分かれている。川頭の読みは「せんだう」かと思ったら、これは「かわがしら」。

神社と郷土

最近、特に郷土を離れて、都市に進出して来る人が多くなりました。日本の大都市の中でも特に政治・教育の中心をなす東京とその周辺は、年々人口が激増し、過密現象を呈しつつあります。大学を目ざして更に高度な教育を受けるために、また生涯の職業を求めてあるいは北国の農閑期の出稼ぎに、上京する人々の諸相はまちまちですが、若い青年たちの進出は著しいものがあります。反面この都市の過密に対して、若いエネルギーを失った過疎地帯は深刻な問題をかかえています。

いったいこのようにして都会に就学または働く人々は、故郷を全く忘れ去ってしまったのでしょうか。いや、そうではありません。彼らの心に本当の休息を与え、ことが出来るのは、故郷をおいてないのです。

ふるさとの生活には、まだなお日本人の伝統的意識を残しています。先人が、何百年も何千年もの昔から、鎮守の社を中心に村落共同体を形成し、神社のまつりを通じて、村人全体の向上発展を祈り、互に協力・団結して助け合って来た生活を、今もなお失ってはいないのです。

鎮守の神さまは、村が始まった時からまつられて来たものです。そして神社の歴史は、そのまま村々の歴史であり、村人の歴史であるときえ言えるのです。鎮守の社殿・境内・森林などすべてが、村の先人の魂にふれたものであり、且つ魂のこもったものなのです。

そして、この神社のまつりを、村人がその生活上、喜びにつけ、悲しみにつけ、とも

にこれを祈り、感謝の気持ちをもって、真剣に行なってきたのです。

つまり神社は、村や町の協同社会の精神生活の根幹をなすものであったのです。神社は、このように郷土の生活と切っても切れない密接な関係にあったのです。

このように考えると、帰郷列車でふるさとに向う人々の郷愁が、鎮守の森から始まることしたら、無理からぬことと言えましょう。

ハチ巻、ハッピでみこしをかつき、力いっぱい太鼓をたたき、境内の神賑わい行事に技をきそい、あるいは切ない者は露店の前にたずみ、金魚すくいや風船つりなどに興じたことなどは、いくつもの年になっても忘れがたい思い出として残ります。

故郷の春まつりや夏まつりに、わざわざ田舎に帰る人が多くなっているのは、このなつかしさを再び確かめようとするものに他なりません。

また、ふるさととは、コンクリートに囲まれ、煤煙に汚れた都会とはまるで違って、澄んだ空気、美しい山々など自然の恩恵をしみじみ味わせてくれるところでもあります。そして更に、ふるさとの人々は、お互いの幸福を鎮守の神さまに祈り、喜怒哀楽を共にすることから、奇合い世帯のような都会の孤独な生活とは違った、あたたかい心の触れあいを教えてくれるところでもあるのです。

郷土を去った人々も、こうしたなつかしさに、いつまでも、ふるさとの味を忘れることがないのです。私達は、もう一度ふるさとの良さを考え直し、私たちの郷土が破壊されることのないよう努力しなければなりません。

平成五年度

岡田神社崇敬会

ご入会のご案内

謹啓 氏子、崇敬者の皆様方には益々御健勝の事とお喜び申し上げます。常々、当社の護持運営につきましましては平素より格別の御賛助を賜り厚く御礼申し上げます。

当社も五十一年に一度の記念事業が無事終了いたしました。ご社殿も立派になり、参拝者も非常に増え、御神威の発揚、唯感謝の至でございます。

現在、当社では毎朝、日供祭（神前に御食事を差し上げる神事）を御奉仕しておりますが、氏子総代一同協議の結果、より多くの氏子崇敬者にお誘い申し上げようとの度、崇敬会を結成する事に相成りました。そして、より一層充実した神社運営を計り、又、次世代を担う子供達の育成の為、誠に恐縮に存じますが、深いご理解とご賛助をお願い申し上げます。 敬具

岡田神社宮司 波多野 直之
岡田神社総代会会長 末 益 友之助
他総代一同

一、目的

岡田神社の護持運営、神社祭典の一層充実。秋季大祭の奉納子供相撲、稚児行列等。どんど焼祭（せんざい）、餅つき、餅まき、福引き等。

一、特典

岡田神社で毎朝行われる日供祭（神前に御食事を差し上げる神事）に於いて、奉賛者の一年間の健康と繁栄等を祈願致します。又、岡田神社の最も貴い祭事であります秋季大祭に

特別ご招待致します。

一、加入方法

岡田神社事務所又は神社総代にお申込み、又はお問い合わせ下さいませ。奉賛金は年、一口千円です。お一人何口でも結構です。（この奉賛金は任意であります）

※ 奉賛金は岡田神社氏子総代会で責任を持って運用させて頂きます。

口座番号 郵便局
福岡五二二八八 筑邦銀行黒崎支店 普通預金一五三二七〇一
名称 岡田神社崇敬会

編集後記

本年は皇太子殿下のご成婚が行なわれ、十月には伊勢神宮で、十年に一度の式年遷宮が予定されておられ、慶事が重なる大変お目出たい年です。六月九日午前十時雨の降る中、宮中三殿で結婚の儀が古式に則り厳に行なわれました。

夕方には、ご成婚パレードが行なわれるのですが、朝からのこの雨なかなか止まないかと思いましたが、朝からの雨一人だけだったので、うらやましながらパレード出発前にはあつた雨が嘘のようにあがり、沿道には十九万人を超える人々が詰めかけ皇太子同妃両殿下は、パレードの終点である東宮御所に入られました。なんと、皇太子殿下の運の強さでしょう。

いづれば天皇陛下になられる皇太子殿下ですが、この様な方をいただく日本国の未来は明るく前途洋々であると確信しました。

皇太子殿下雅子様本にお目出度うございます。好評の「神社なげなせ問答」皆様のたくさんのおたよりをお待ちしています。

●平成五年度の岡田神社崇敬会の申し込みを受けつけています。

●ご入会いたる方々の一年間の家内安全、繁栄等を毎朝に祈願いたします。多くの方々のご入会をお待ちしております。

●祝祭日には国旗を掲げましょう。
●一日、十五日には神社にお参りしましょう。